

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4097900031		
法人名	株式会社ジャントウ		
事業所名	ケアホーム和楽園		
所在地	福岡県三潁郡大木町絵下古賀284-1		
自己評価作成日	令和3年5月7日	評価結果確定日	令和3年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>閑静な田園地帯に立地し、四季折々の季節を感じ取れる地域です。利用者様との共同作業で、菜園にて栽培している無農薬野菜を食事に提供しています。菜園の指導や腰痛予防体操の実施等を通じ地域住民の方々との交流を図っています。利用者様の望む暮らし作りを心がけ、その人らしい人生を送っていただけるように支援・ケアしていくことが使命と感じ仕事させて頂いています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和3年6月16日		

<p>「ケアホーム和楽園」は平成26年に開設された、1ユニット型のグループホームである。田園風景のなかにたたずみ、側に川が流れ、事業所に隣接した畑では、春ジャガイモ、スイカ、ナス、ピーマン、とうもろこし、トマトなど季節の野菜を栽培している。利用者と一緒に草取り、水やりなどを行う。野菜は事業所の食事の食材として使われ、調理は免許を持った施設長が調理し、新鮮な、四季を感じるおいしい食事を楽しんでいる。利用者の方の望む暮らし作り、その人らしい人生を送っていただけるように、職員全員で心がけ業務にあたっている。地域とは以前のような交流は困難だが、感染症対策には力を入れ、8/1には公民館行われる「獅子舞」を見に行く予定である。区長さんが公民館だよりを事業所に届けて下さり、又事業所の催し物の紹介をしてくれる。今後、事業所1階のスペースに「カフェ」を作り地域との交流の場としたいと思っている。更に地域交流を深め、地域の中で福祉の拠点として活躍が期待される事業所である。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「常に思いやりの心を持ち、地域との交流の中で、地域社会に信頼される事業を目指します」との理念を掲げ、日々のケアやサービスを理念に基づくように努力している。	事業所理念は玄関に掲げてある。朝礼時に唱和を行ない、理念に基づき、利用者の方本位の生活ができるように職員全員で努力している。今月より職員各自、行動目標を立てる。年1回の昇給試験も行き、より良いサービスを実践できるように努める。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じて、地域行事の年間予定表を頂き、利用者様と職員共々できる限り参加するようにしている。また、菜園でできた作物は地域の方々に配布しております。	区長が公民館だよりを事業所に届けてくれ、事業所の催し物の案内状を公民館に渡してくれる。8月には公民館で行なう「獅子舞」を見に行く予定にしている。介護教室として、敬老の日に地域住民の方に参加してもらい、認知症の方との接し方や介護方法などの説明を予定している。3か月に1回腰痛予防体操なども行っている。コロナ禍の中以前と同じような活動は困難な状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室として、敬老の日に地域住民の皆様に参加していただき、認知症の方々の接し方や介護方法などの説明を予定している。新型コロナウイルスの影響で現在は困難な状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度の割合で開催し、当ホームの活動状況・運営報告等を報告し、地域の方々・利用者様のご家族様からの意見・アドバイスをいただいている。その意見を基に理念に沿ったサービスの向上につなげていけるように努力している。新型コロナウイルスの影響で現在は困難な状況。	2か月に1回開催し区長、民生委員、包括、家族などの参加があり、現状報告を行ない、意見、アドバイスをもらい、サービス向上に活かしている。現在、コロナ禍の中、会議の開催は行っていないが、活動状況、運営報告を行い、電話で聞き取ったり、メール送信、家族が支払いに見えたときなどに意見、アドバイスなどをもらう。家族の訪問も困難なため、スマートホンで写真を送信したり、玄関先の利用者の笑顔の写真を見て安心してもらっている。	運営推進会議に出席していた家族が、参加できないよになり、現在家族の参加はない。家族は仕事をしている方が多い。今後、家族に参加してもらえるように、行事と一緒に開催したり、土、日、祝日など、参加しやすい曜日を検討するなど工夫してみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター主催の介護支援専門員連絡会に参加し情報交換を行なっている。	町役場に運営推進会議の案内状、現状報告を行っており、以前参加をもらった。市から情報は送付されてくる。センサーマットの件で相談したことがある。介護保険申請は、町役場の支部に向いている。地域包括主催の介護支援専門員連絡会に参加し、情報交換を行なっていたが、コロナ禍の中、現在は文書を送付したり、メール送信を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会に参加し認知を深めるようにしている。	年1回の社協主催の外部研修に参加し、管理者が内部研修を行っている。3か月に1回身体拘束委員会を行っている。毎週木曜日に医師が見える時に、看護師、管理者、施設の看護師などと、知識を深めるようにしている。玄関の施錠もしておらず離設もない。落ち着かず事業者内を歩き回る方がおり、職員が寄り添い一緒に歩いている。	

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束については、研修会に参加し認知を深めるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の支援体制ができるよう勉強会・研修会に参加していきたい。	コロナ禍の前に司法書士を後見人に行っている方が入居予定だったが、病気をされ入居はされなかった。今後、成年後見制度利用の要望のある時は、弁護士への窓口はある。7月又は8月に職員に外部研修に参加してもらい、内部研修に落としもらう。職員全員で制度の理解などを深めていき、それらを活用できるよう支援をして行く。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、責任者がご本人様・ご家族様に十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書箱を設け、利用者様・ご家族様のご意見を頂けるようにしている。また、貴重なご意見をいただいた場合には、管理者・責任者会議を行い反映できるようにしている。	家族の訪問時又は電話にて、利用者、家族の意見をいただいている。いただいた意見、要望には、会議を行ない反映できるように努めている。今後要望があればサービスの多機能化を検討して行く。事業所の1階に「認知症カフェ」などを開催し、地域との交流を考えている。	1階は明るく広々としたスペースがあり、窓からは菜園が見える。今後ぜひ素敵な「カフェ」ができ、地域との交流の場所となるように期待している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議という場は特別設けておらず、随時意見を述べてもらえるようにしている。	毎日の申し送り時に、意見交換を行ない、月1回、最後の金曜日にミーティングを行なう。夜勤の時に歩き回る利用者があり、情報を共有している。欠席した職員にも文書回覧している。管理者には、日頃から随時相談はできる。必要な品物はすぐに購入してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々研修に行ってもらったり、勉強会を開いたりして能力UPの場を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募の連絡があれば、全て面接を行うようにしている。その選考基準については、労働意欲が高ければ、年齢・性別に拘わらず採用している。	職員の年齢は40歳代から70歳代と幅が広い。事業所母体を変更する前から勤務している職員もいる。休憩は1時間あり、2階に休む場所もある。職員間のコミュニケーションは良好で、日々の業務もスムーズに行われている。今後も「常に思いやりの心」をより深く極めて行こうと思っている。研修案内もあり、スキルアップを図る機会も設けられている。	

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協会の実施する研修等を利用していききたい。	管理者が人権教育を行っている。又職員が交代で衛生管理、感染症、身体拘束などの研修を受け、内部研修に落としている。コロナ禍の中、外部研修には思うように参加できていない。入居者に対する人権を尊重し、施設の電話を利用し、いつでも家族などに連絡できるように支援をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で全員に社外の研修会に参加していただくようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や連絡会を通して、同業者との意見交換等の機会を増やしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員・管理者が本人・ご家族に生活歴・要望等を聞き取り、ホームでの生活に不安なく過ごせるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意見・要望はなんでも話していただくように配慮し、納得されるサービスの提供に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見・要望の聞き取りからサービスの情報を提供し、本人様にとって必要なサービスの提供を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園や買い物等を通じ、できるだけ自宅に住んでいるという感じで生活していただいている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、連絡を密にし本人らしい生活をしていただくよう配慮している。		

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人の方々には、来訪の際遠慮なく面会できるように働きかけている。	馴染みの友人、近隣の方、民生委員などの訪問がある。家族との連絡も密にしている。絵手紙、生け花の先生が各月で見えていた。利用者が絵手紙を家族に送り喜ばれた。家庭菜園が好きだった方は、畑になっている野菜を楽しみにしている。現在絵手紙、生け花教室はコロナ禍の中休みになっているが、今後又始めようと思っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の生活ペースを踏まえうえで、共同作業やレクレーション等を行うことにより関わり合いを支援するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所されてもお見舞いや連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向を汲み取り、ご家族様に相談し、ニーズの把握に努めている。	初回は本人宅、病院などを管理者、ケアマネジャーが訪問する。病院からの入居希望の場合は家族、病院職員が話し合い、その後、事業所に連絡がある。初回のアセスメントは施設独自の用紙「らしきノート」を活用する。医師、看護師、職員などと話し合い最初のプランを作成する。日頃の情報は日報に記入し、職員間で共有している。意思疎通の難しい方は日頃の表情、行動から本人の意向を汲み取り、家族と相談しニーズの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・介護支援専門員での情報交換を行い、状況把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りをもとに、各職員で状況把握を行い、個々の役割支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を反映し、本人らしく暮らしていけるような介護計画の作成を心掛けている。	利用者の状況は個人日常記録に記載し、申し送り時にその都度話し合い、情報を職員全員で共有している。課題、問題点を見つけ出し、本人、家族の意向、満足度、目標達成状況などのモニタリングを行ない、変化を見逃さないようにしている。医師、看護師などからも意見を聞き取り、現状に即した介護計画をケアマネジャーが作成している。ケアプランは職員全員が把握しており、プランに紐づいた支援を行っている。	

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況は、記録シートに記載し、計画の変更・実践に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後要望があればサービスの多機能化は検討していく予定である。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事などには積極的に参加し、個人の有する能力を損なわないように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医との往診契約を結ばせていただいている。	事業所の協力医がかかりつけ医となっている。24時間対応可能で随時医師との相談もできる。木曜日に医師、看護師の訪問がある。協力薬局から薬の説明をもらう。他科受診は、家族支援で行われ、家族が難しい時には、事業所の看護師が対応している。受診結果は口頭や診療記録を受け取り、職員間で情報の共有を行っている。歯科受診は入居時に行なってもらい、必要時には歯科医の訪問がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努めている。また平常と少しでも変化があれば、看護師が協力医に連絡するようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、連絡を密にし、今後の対応や現状把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、協力医を交え重度化した時の対処の仕方を相談し、チームケアの支援に取り組んでいる。	今まで3名様様の看取りを行っており、今年度は2名様様の看取りを行った。看取りの指針があり、入居時に説明し契約書を得ている。重度化した時には再度指針を説明し家族、医師、職員と話し合い、同意を得ている。緊急時の対応については、マニュアルを作成し常時閲覧できるようにしている。看取りについての内部研修を行い、看取りの経験のある職員もおり、職員全員が看取りに対し理解があり、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作成し、常時閲覧できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所のルート確認を含め、避難訓練を実施するようにしている。	6月、12月に行い、1回は夜間想定で行う。2年前には消防署立ち合いで行い、救急車、消防車、消防指示車などが来た。区長の参加もあった。避難場所のルート、場所の確認などを行い、避難場所は大木町体育館、公民館などになっている。大木町役場から、防災ラジオ放送がある。災害情報のFAX受診訓練なども行っている。備蓄も水、缶詰、レトルト食品など2～3日分ある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を実施し、人格の尊重やプライバシーの保護に努めている。	社協主催などの外部研修に定期的に参加、内部研修を行い、職員間で共有し、人格の尊重、プライバシーの保護に努めている。コロナ禍の中、外部研修には思うように行けないが、社内研修は実施している。契約時に写真の同意書はもらっている。言葉かけは「～ちゃん」という呼び方を希望されている場合は、親しみの中にも敬意を持ち、対応に心がけている。離設はないが、警察の方へは連絡をしており、他地区からも「もし見かけたら」と、協力の要請はある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意向を汲み取り、ご家族様に相談し、ニーズの把握に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の意向を尊重するケアの実践を行うように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の際には、本人の希望に沿った髪形にカットしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の要介助者以外の方々には、後片付けを実施してもらっている。家庭菜園で採れた野菜の皮むきや処理なども手伝ってもらっている。	菜園で収穫した野菜を食材とし、バランスを考え調理免許を持った管理者が月曜日から金曜日まで調理を行なう。春ジャガイモの冷製スープなどを楽しんでいる。ゆでたジャガイモの皮むき、玉ねぎの皮むきなど、できることを、利用者に手伝ってもらう、おかずは配食を利用し、炊飯は事業所で行なっている。土曜日、日曜は職員が調理する。	

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人のチェック表から適切な摂取量の把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の口腔ケアを実施しており、指導を仰いでいる。日々の口腔ケアは職員付添いの元、出来る限り本人にやってもらうように支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、職員の声掛け・誘導により、トイレでの排泄を実施している。	排泄チェック表に全利用者の排泄状況を記入している。職員全員で利用者の排泄パターンを把握し、トイレに誘導することで、パット交換の回数が減った。布パンツのみで排泄も自立している方が1名いる。おむつを利用している方はいない。夜間はポータブルトイレを利用されている方もいるが、基本的にはトイレで行っており、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の管理を行っており、食後の運動にも十分配慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日・金曜日の2回が定期入浴日とさせてもらっているが、本人の状態に合わせて他の日にも入浴可能である。	月曜日、金曜日を定期入浴日としている。本人の状況に合わせて、他の日にも入浴可能である。入浴剤など自分の好きな物を使用している。入浴拒否がある場合は、時間を少し置いたり、声かけの工夫などを行っている。入浴時はコミュニケーションの場として大事にしており、皮膚観察も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の習慣を把握し、安心・安楽なケアの実践に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局から説明していただくようにしており、日々の変化はチェック表に記録するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やレクリエーションを通して、気分転換や残存機能の低下防止に努めている。		

R3.6外部評価自己・外部評価表(和楽園)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物以外でも本人の要望があれば出かけていくようにしている。	本人の意向を尊重している。事業所前に置かれている花の鉢を見て回ったり、近隣の散歩は杖を使用しぼつぼつとゆっくりと、田園風景を楽しんでいる。職員も側につき一緒に歩いている。8月には公民館で行なわれる「獅子舞」を見に行く予定にしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持していらっしゃる利用者様はいませんが、要望があれば実施できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し、いつでも連絡していただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者様の自作の絵画を飾るなどしている。	事業所内のフロアは南北に60m程度あり、フロアの真ん中にテーブルが置かれ、周囲が居室となっている。事業所1階はオープンスペースになっており、利用者が体操などを行っている。居室は2階にあり、リビングには利用者が作製した作品が飾られ、居心地の良い空間づくりがされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を設け、テレビや雑談できるよう工夫している。また、玄関から花壇を眺めたりできるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのあるものは入居時にご家族様に持参していただけるようにしている。	居室内はベッド、エアコン、カーテンなどが備え付けられ、収納棚があり、片付けがしやすい。テレビ、筆筒など使い慣れたものや、写真などを側に置き、居心地よく過ごしている。居室の入口には、手作りの花生けに、花が飾られている。入口には手すりをつけられ、安全に配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の自立度の改善のための手すりや物品配置に考慮している。		